



たくさんの色鮮やかなつし飾りやひな人形に興味津々の園児

第6回町家のひなまつり ひな飾りで華やかな彩り

町商工会女性部(近藤とし子部長)主催の第6回町家のひなまつりは2月27日から3月3日まで、新町地区の町家で行われました。

3日目には葛巻保育園児による踊りが披露され、来場者たちは子どもたちの元気いっぴいの歌とかわいらしい振りに目を細めていました。

部屋を埋め尽くすほど飾られたひな人形やつし飾りに遠藤美恵子さん(76歳、田子)は「子どものころを思い出します。季節を感じられ、色合いもきれいで素晴らしいです」と訪れた人たちと鑑賞していました。



参加者の注目を集めた白子の天ぷらと会場を盛り上げたアルパ奏者の絵美夏さん(円内)

震災復興応援イベント 三陸の食を味わうタベ

東日本大震災から8年目を迎えた3月11日、三陸防災復興プロジェクト2019関連イベント「三陸の食を味わうタベ」がグリーンテージで開催され、町民ら124人が参加しました。

三陸産の魚介類などを使った料理に加え、会場内ではタラの白子の天ぷらが揚げられ、参加者たちの注目を集めていました。また、あつあつの天ぷらに添えられた桜色の「くずまきワインソルト」が春の彩りを一層添えていました。

アルパ(ラテンハーブ)奏者の絵美夏さんのコンサートも行われ、会場を盛り上げました。

県立が葛巻病院を訪問 地域医療の現場学ぶ

3月6日、県立大学看護学部の学生ら14人が葛巻病院(遠藤秀彦院長)と高砂荘(和野喜一理事長)を訪問し、地域医療や看護ケアについて理解を深めました。

葛巻病院を訪れた学生らは、施設内の説明を受けた後、同院で取り組む高齢患者の日常生活への自立支援の体制や高砂荘で行った口腔ケアと褥瘡予防の出前講座などについて説明を受け、「実際に見たり直接お話を聞くことができ良い経験になりました」と真剣に耳を傾け、メモを取っていました。



鳥居美智子看護師長(右)の説明に真剣に耳を傾けメモを取る県立大学看護学部の学生たち

春の訪れにぎやかに 茶屋場えんぶり保存会

茶屋場えんぶり保存会(東春三会長、会員20人)の「門打ち」は2月24日、高砂荘と葛葉荘を含む町内6カ所で行われました。

五穀豊穡を願う「舞込み」ややし舞の「松の舞」、祝舞の「大黒舞」などが披露され、訪れた人たちを魅了。清水敬子さん(74歳、田代)は「15年ほど前に見て以来。久しぶりに目の前で見ることができて楽しかったです」と世代交代した踊り手たちを感慨深げに見つめていました。

色鮮やかな衣装の踊り手やにぎやかなおはやしが春の訪れを感じさせていました。



五穀豊穡を願う「舞込み」を披露する茶屋場えんぶり保存会と鑑賞に訪れた地域の皆さん

町保健委員らが研修会 生きる素晴らしさ学ぶ

3月14日、町保健委員協議会(山本良子会長、会員67人)の研修会がグリーンテージで開催され、保健委員ら80人が参加しました。

研修会では、進行性難病筋ジストロフィーを抱えながら、全国各地で講演会とミニコンサートを開催している小澤綾子さんを講師に行いました。講演会では「今を生きる」と題して、元気でいられる時間が限られているなら、今を全力で楽しんで生きていこうと決めるまでの心の葛藤や生きることの素晴らしさを参加者たちに伝えていました。



小澤綾子さん(円内)の歌声に合わせて手拍子をする参加者の皆さん



入試や大学生活など「進学」をテーマにさまざまな話をざっくばらんに語り合う参加者たち

進学テーマに語り合う 経験伝え後輩の夢応援

進学をテーマにしたフリートークカフェは3月17日、新町地区の町家で開催され高校生や帰省中の大学生ら16人が参加しました。

葛巻高校出身の本宮和昌さん(19歳、泉田)と石角珠乃理さん(18歳、新町)、村本文音さん(18歳、新町)の3人が企画。現役の大学生らが自らの経験を話し、受験に向かう後輩の不安や焦りを少しでも解消するため、学生生活などをざっくばらんに語り合いました。村木さんは「イベント企画は、いい勉強になりました。自分の話が後輩たちの役に立つといい」と応援していました。